日蓮と鎌倉北条政権

はじめに

（１）日蓮宗（の法華宗）特色
（２）奈良・平安仏教
（３）鎌倉時代の新仏教
（４）日蓮の生い立ちと法華宗の立ち上げ
（５）仏教宗派と政権
（６）日蓮の鎌倉幕府へのアプローチ
（７）信仰での教えの方法
（８）法華経の概容
（９）日蓮宗の信徒
（10）日蓮の佐渡流罪
（11）身延山での活動
（12）北条政権の日蓮への対応
（13）日蓮寂後の日蓮宗
おわりに

はじめに

日蓮を日本史上の重要な仁として取り上げます。

ここでは歴史上の人物の一人としますので聖人の敬称を略させて頂きます。

数ある仏教宗派の中で他の宗派とは大変異なる特色があります。教えについてはあまり深く入りません。信徒ではありませんし、宗教専門家ではありませんので。時代の様相から見た日蓮を見ます。

信徒の方には間違っている部分があると指摘があるかもしれません。更に失礼な部分があればお許しください。日蓮が宗教上、歴史上における重要な仁としてその功績を認識して記述します。

（１）日蓮宗（法華宗）の特色

日蓮宗は鎌倉時代に日蓮によって開宗された、日蓮を祖師とする仏教の

宗派です。法華宗とも言われますが通常日蓮宗と言っています。（日蓮は法華宗と言いました）

日本の仏教には多くの宗派があります。比較的よく知られている天台宗、真言宗、臨済宗（禅宗）、曹洞宗（禅宗）、浄土宗、浄土真宗（真宗）日蓮宗等がありますが、開宗した祖師の名を宗派の名に付した宗派は日蓮宗以外にはありません。

仏教以外の世界の宗教でもキリスト教ぐらいでしょうか。

お大師様で有名な真言宗の空海でさえ、宗派の名前は真言宗です。日蓮宗は本来の名は法華宗でしょうが、日蓮宗と祖師日蓮の名を冠します。

いわばこれ位この宗派は日蓮に強く帰依（きえ、服従すがること）します。

次の特色です。

唱名（しょうみょう）は「南無妙法蓮華経」（なむみょうほうれんげきょう）と唱えます。これを唱題と言っています。

他の宗派の唱名は浄土宗、浄土真宗、天台宗では「南無阿弥陀仏」でこれを念仏と言います。日本人の多くに知られた唱名ですね。

この外の唱名では禅宗で使われる「南無釈迦仏」、真言宗で使われる「南無大師遍照金剛」や「南無観世音菩薩」があります。いずれも宗派の本尊（仏）の名を唱え、成仏、極楽往生を祈ります。

しかし日蓮宗では本尊は釈迦如来（釈迦仏）ですが、これを称名せず、お経の中で根幹となる「妙法蓮華経」（法華経）を唱えます。「南無」は帰依・敬礼の意味です。お経の法華経の至上主義です。

次に本尊です。

普通、他の宗派では本尊は仏像ですが、日蓮宗では仏や釈迦如来や菩薩などの名を紙に字で書いた曼荼羅です。

日蓮が考案されたものです。

日蓮宗のお寺ではこの曼荼羅とともに釈迦如来と日蓮聖人像を奉安（安置）しますが、信徒の家の仏壇では通常曼荼羅だけを本尊として安置して祈ります。

曼荼羅の前で「南無妙法蓮華経」と唱えると娑婆世界で幸せになり、成仏できます。

日蓮宗で一番大事なのは「南無妙法蓮華経」を唱えることです。声高に「なむみょうほうれんげきょう」と皆で唱和しますと大変力強く、更に最近では

外で見かけませんが、唱和しながら団扇太鼓をたたいて行進しますとその景気の良さは他宗派を寄せつけません。「だんだん良くなる法華の太鼓」と言われていますね。物事がだんだん良くなることのたとえです。

（２）奈良・平安仏教

日蓮の登場は鎌倉時代です。

その前の奈良・平安仏教についてまとめます。

日本の仏教は奈良時代、平安時代、鎌倉時代で今日の主な仏教宗派がそろいます。

奈良時代には具舎宗、成実宗、律宗、華厳宗、三論宗、法相宗の南都六宗と言われた宗がありましたが、それぞれ教団を構えて布教活動をするわけでなく僧侶は東大寺、興福寺、唐招提寺等に属しすべてを学びます。いわば仏教学教科の一科目でした。

平安時代に入り、最澄が天台宗を祖師となって比叡山延暦寺で開宗します。空海が祖師となって真言宗を高野山金剛峰寺で開宗します。

日本で史上最も仏教発展異に寄与した僧侶二人と言って良いでしょう。僧侶以外では飛鳥時代の聖徳太子でしょう。

その後平安時代には、この二宗が南都（奈良）の旧仏教を凌駕する勢いで、天皇家、公家、武家、一般民衆に広がります。

空海の真言宗は密教（みっきょう）です。南都の仏教の延長戦にあると思われます。空海は奈良の東大寺別当（最高職）にも就任しました。

最澄の天台宗は顕教（けんぎょう）が中心ですが台密（たいみつ）と言われる密教も含まれています。（空海の密教は東密（とうみつ）と言われます）

顕教も密教もお釈迦様（紀元前６~5 世紀）寂後の紀元前後にインドで起こった大乗仏教と言われる仏教です。

大乗仏教は仏になるのにお釈迦様が言われた修行して悟りを得た人だけでなく、衆生みんなが仏になれるとの教えがあり、これが中国・朝鮮半島経由日本に伝わりました。

お釈迦様の教えに近いと思われる小乗仏教はタイ、ミャンマー、ラオスに伝わって行きました。（小乗は大乗仏教派が自分たちを大、その外を小と名付けたのです（彼等は上座仏教と言います）。

この大乗仏教の中で顕教と密教が分かれました。日本には仏教が伝来の時、両方伝わったのですが、顕教と密教の意識がありませんでした。

平安時代の初めに空海と最澄が特に空海が密教の功徳を主張し、真言宗を打ち立てました。

顕教は「釈迦が秘密にすることなく明らかに説きあらわした教え」で、 密教は「大日如来が説いた教えで、奥深い教えであるため容易に明らかにできない秘密の教え」と言えるでしょうか。

大日如来と釈迦如来はどちら偉いか。二説あります。大日如来は釈迦如来の化身説、もう一つは世界をくまなく照らす如来で、釈迦如来より上位の如来説です。

東大寺の大仏は毘盧遮那仏です。釈迦如来の化身でしょう。

空海の真言宗は密教だけですが、最澄の天台宗は仏教の総合大学のようなものでいくつかの教科科目（宗）があります。顕教として法華経、阿弥陀教、禅定そして密教もあります。

（３）鎌倉時代の新仏教

天台宗の構成から、後年いくつもの宗派に分派し教団を打ち立てる僧（祖師）が出てきます。

これが鎌倉時代（１１９２～１３３３年）の新仏教と言われる宗派です。

先ず栄西（１１４１～１２１５年）は臨済宗（禅宗）を開宗します。

禅宗は釈迦如来を本尊とし、平安時代に既にも広まっており、一部の公卿からも帰依されていました。

栄西は備中の出で、比叡山延暦寺で天台宗を学び、宋に留学して禅宗を学び天台宗から禅宗を分派して１１９３年頃独立の教団を設立しました。禅宗の師は宋の懐敞です。

坐禅と公安（問答）し、禅道に励みます。

栄西寂（死去）以降も臨済宗は北条氏に庇護され足利家、徳川家の支援により江戸時代まで繁栄を続けます。北条氏が創建した鎌倉の建長寺や円覚寺、京都では京都五山（天龍寺、相国寺、建仁寺、東福寺、万寿寺)、南禅寺等々大寺院が時の政権の庇護により創建され栄えました。今日まで寺院は残っています。

ただ信徒は上級公卿や上級武士で、一般人には布教が及びませんでした。

鎌倉時代以降一般武士、百姓、町人で臨済宗に帰依する人は少ないでしょう。現在でも他宗に比べて少ないはずです。

法然（１１３３～１２１２年）は延暦寺で天台宗の中の浄土宗に引かれました。師は叡空と言います。１１９８年に専修念仏を掲げ浄土宗を開宗し、教団を設立しました。

“阿弥陀仏（如来）にすがって死後西方極楽浄土に往こう。「南無阿弥陀仏」をただ唱えるだけで良い。自力でなく他力（阿弥陀様）によって極楽往生できる。”

これは公卿から一般武士、民衆に多いに受けました。

阿弥陀如来への信仰は奈良時代、平安時代から公卿から人気がありました。

阿弥陀様を安置した宇治の平等院は有名ですね。

現世で栄華を誇り、幸せ真っ最中の藤原氏さえ、死後の自分の行方は心配でした。

阿弥陀様にすがれば極楽浄土へ往けるこの教えは歓迎されました。

法然の浄土宗は衆生の誰でもが阿弥陀仏にすがって「南無阿弥陀仏」を唱えて極楽浄土に往こうと言うのです。大衆から大歓迎を受けました

道元（１２００～１２５３年）は同じく延暦寺で天台宗を学び、そこから宋に留学して禅を学び、帰国して１２２７年曹洞宗を開宗し教団を開設し越前永平寺を本山としました。

師は臨済宗の明全と言われ栄西の孫弟子です。

曹洞宗は公安（問答）は行いません。ただ座って坐禅をするだけで良いのです（只管打座―しかんだざ）。

これも一般大衆の人気を博し、信徒を増やしました。

今日でも我家は禅宗と言われる家のほとんどは曹洞宗でしょう。

親鸞（１１７３～１２６２年）は延暦寺でも修行しましたが、浄土宗を学んだのは法然からです。親鸞は法然を真底信頼し、尊敬していました。

親鸞の布教の活動は法然が寂した１２１２年あたりからでしょう。

親鸞は法然の浄土宗から分派するつもりはなかったのですが、親鸞の寂後弟子たちが一向宗を打ち立て親鸞を祖師として布教を続けました。今日では浄土真宗と言っています。

「南無阿弥陀仏」を言うだけで悪人でも極楽往生できるのです。一般の武士も一般大衆の上下を問わず人気を博し、鎌倉、室町、戦国、江戸時代、そして今日まで人気のある宗派です。

（４）日蓮の生い立ちと法華宗の立ち上げ

そして５番目に日蓮の登場です。

１２２２年（貞応元）に安房国小湊（千葉県鴨川市）の名もなき海人（漁師）の子として生まれ、地元の天台宗の清澄寺（せいちょうじ）に学び、１６歳で出家し蓮長と名乗ります。

ご本人は海人の出としか明かされませんが、庄司（荘園役人）の家ではないかとの説もあります。はっきりしません。

臨済宗の栄西のお家は備中国吉備神社の社司賀陽氏の出、法然は美作国の押領使（美作国の警察本部長）の息子で、道元は公卿の出身（父は村上源氏の久我通親、母は関白藤原基房の娘)、親鸞も皇太后宮大進日野有瀧の子と、みんな中流貴族以上の出身です。

日蓮は１８歳で鎌倉に遊学、更に２１歳で比叡山延暦寺に学び、２７歳で京都、園城寺、奈良、高野山に遊学し、その間法華経を真実の仏語と見きわめます。

１２５３年３２歳で清澄寺に戻り、日蓮を名乗り、法華経を立教し、法華宗として開宗します。

教えを乞うた僧侶はいましたが、上記４人の僧侶と違い特段に影響を受けた師匠はいませんでした。

３３歳で鎌倉の名越に住み、釈迦を尊崇する法華経の布教活動をします。

弟子や信徒が増え日蓮一門が形成される中、鎌倉の諸大寺に法論（宗論）をしかけます。

特に法然の浄土宗への攻撃は激しいことが目立ちます。法然はすでに寂しておりましたが弟子の親鸞等により浄土宗は京、鎌倉の外全国的に布教が広がっています。

仏教の新宗の開宗は奈良や京都の政権がある地から起こします。南都の仏教は奈良ですが、最澄の天台宗、空海の真言宗、栄西の臨済宗、法然の浄土宗、道元の曹洞宗、親鸞の浄土真宗（一向宗）も布教の初めは京都からです。

日蓮は鎌倉で立ち上げました。京都での布教開始は孫弟子日像からです。

日蓮の時代、政権は京都でなく鎌倉の意識がはっきりしていました。

（５）仏教宗派と政権

それでは仏教宗派は何故政権に近づくのでしょうか。

それは日本仏教の歴史にあります。

元々仏教は天皇家によって輸入されました。それは現世を良くし、死後成

仏し極楽浄土を説いた仏教の教えのすばらしさと共に、仏陀の下に天皇そしてその下に臣下、その下に百姓の序列を示した教えにあります。

古墳時代の大和国は豪族連合のようなもので豪族たちは各々の氏神を持っており、天皇家も天照大神を持つ豪族の一つと思っており、臣下の意識がうすかったのです。

仏教を取り入れ、天皇の地位の絶対を確立できました。飛鳥時代のことです。

従って仏教（寺、僧侶）は、天皇の下での鎮護国家の祈りを果たされなければならないことが当然の役目となります。

しかしその後奈良仏教寺院は勢力を強め朝廷政治に意見を言うようになります。

これを嫌い桓武天皇が京都に遷都しました。

平安京には当初東寺と西寺の官立の二寺しか認めませんでしたが、やがて郊外に比叡山延暦寺や高野山金剛峰寺が創建され、公卿が仏教信仰にすがるようになり、荘園が寄贈され、多くの関連の寺社が設立され、寺社勢力が台頭していきます。

そして「王法（王権＝天皇・朝廷）と仏法（寺社勢力）は相依相助（あい依りあい助けあう)」、又「王法と仏法は車の両輪、鳥の双翼」と言われるようになります。

平安時代後期に寺社勢力が王権との対等を言い出しました。

しかし寺社は自分の荘園領の侵害については圧力団体として強訴もしますが、王権に参与は要求しません。王権側も認めなかったでしょう。

鎌倉時代に入り、王権は朝廷と武家（鎌倉幕府）に分かれますが、徐々に武家に特に承久の乱以降の政権は鎌倉幕府の北条政権が握ります。

仏教勢力に勢いがある中で、鎌倉新仏教が立ち上がります。

新宗派の立ち上げには、資金援助（荘園、領地の寄贈や布施）をしてくれる公卿や武士の檀越（だんおつ）（旦那）の支援と時の政権の公認が大事です。信用力によって信徒が増やせるからです。

鎌倉時代初期に立ち上げた宗派は天皇、朝廷のいる京都からでした。

日蓮の頃は政権ははっきりと鎌倉幕府の北条政権です。成功するためには北条氏へのアプローチが大事です。

（６）日蓮の鎌倉幕府へのアプローチ

１２６０年３９歳の時に「立正安国論」を執筆し、前執権で最高実力者北条時頼と対面して、同書を提示して鎌倉幕府で法華宗のみ採用して他の宗派を禁じるように要求します。(法華宗は後年日蓮宗と言います)

同書は十の問答形式をとっていますが結論としては“国家が正法（法華経）を立てて邪法（浄土宗、真言宗、禅宗等）を禁じ、人心の根本を改造して、もって国の真の平和をもたらせよ”となるでしょう。

そしてその頃地震や災害があいつで起こっており、これを収めるには法華経への信仰が必要であると。

「我日本の柱とならむ、我日本の眼目とならむ、我日本の大船とならむ」

日蓮の法華経は、政権が法華経を信ずることが国家安泰、鎮護国家の元になるとの考えです。

そのために法華宗の公認を求めたのです。

当時、日蓮の最大対抗は大衆に人気のある浄土宗（一向宗）とともに社会福祉に力を入れた真言律宗でした。

鎌倉の政権はすでに源家より北条氏に移っており、北条氏（時頼）は臨済宗に帰依する所が大きいのですが、その他の真言宗、天台宗、浄土宗、曹洞宗、真言律宗なども支援し、仏教各宗と友好関係にあります。

法華宗以外の宗派を禁ぜよとの新宗派の日蓮の要求飲めるはずがありません。

政権の実質トップの北条時頼が新宗派の日蓮と対面することは異例と思われますが、日蓮はすでに時の人だったのでしょう。

その後も日蓮の他宗への論戦は激しい中で、日蓮の住む鎌倉の松葉ヶ谷の草庵が他宗から焼き打ちされます。浄土宗信徒と言われています。

しかし日蓮も論戦を止めません。

幕府は日蓮を伊豆へ流罪としました（１２６１年)。日蓮宗の信徒は法難と言います。

伊豆での布教は自由のようでした。伊豆で地盤を作りました。２年で赦免となります。幕府の幹部の誰かが申請したのでしょう。一旦生まれ故郷安房に帰りますが、そこで反対派に襲われ負傷します。そして鎌倉に戻ります。

鎌倉へ戻れるのですから幕府からの禁圧はなかったのでしょう。

鎌倉では又各宗と又論戦します。

鎌倉仏教でも法華宗（日蓮宗）は後塵を拝する形です。栄西の臨済宗の

開宗は１１９３年、法然の浄土宗は１１９８年の、道元の曹洞宗は１２２７年、親鸞の浄土宗（一向宗・浄土真宗）の布教活動は１２１１年です。

日蓮の法華宗の開宗は１２５３年と鎌倉仏教の他宗と比べて大分後です。

先行の彼らの地盤を崩すために時の政権に強くアピールし、他宗へ論戦して勝ち地盤拡大をねらったと思われます。

もちろん国の安寧を願い、信徒の成仏を願い、そのための法華経の布教への使命感からでしょう。

（７）信仰での教えの方法

ここで日蓮は法華宗（日蓮宗）をどのように庶民に教えたかです。

信徒は誰でも「本尊の前で“南無妙法蓮華経”を唱えれば成仏できる」となります。

本尊は日蓮が紙に釈迦牟尼仏や菩薩等の名を書いた曼荼羅です。後継の曼荼羅を参照ください（活字体も付けています)。

中央に一番大事なお題目の「南無妙法蓮華経」中央左に一番大事な仏様「南無釈迦牟尼佛」、右側の「南無多宝如来」は法華経に出て来る重要な如来で、お釈迦様と同位、もしくは近い地位と言うことでしょう。

いくつもの菩薩名が左右にあります。菩薩は釈迦の弟子や悟り前の最高位の仏です。大持国天王や大毘沙門天王の天王、明王、王はインドの神様です。

仏教はインドで誕生しましたのでこうなんでしょう。

しかし面白いのは中央下の方右側に天照大神、左に八幡大菩薩と日本誕生の神様があります。

平安時代に盛んになった神仏習合は鎌倉時代にはどこの宗派も守護神として日本の神様を取り入れます。日蓮も同じく取り入れました。

信徒はこの写しを本尊とします。(お寺には釈迦如来や日蓮の像も安置されます)

信仰方法は簡単です。

しかし禅宗もただ坐禅すれば成仏でき、浄土宗も「南無阿弥陀仏」と称えれば極楽浄土に往けます。どの宗派も一般信徒へは難しいこと要求しません。

宗教の一般布教には大事なことなのでしょう。

キリスト教も一般信者は神父や牧師の説教（聖書の解説）の後に「アーメン」（その通り）と言っておけば良いのです。要は「神とキリストをただ信ずる」ことが一番大事なのです。

親鸞は「たとひ法然上人にすかされ（だまされ）まいらせて、念仏して地獄におちたりとも、さらに後悔すべからずさふらふ。」（歎異抄）と尊敬、信頼する法然上人が極楽浄土があると言っておられるので自分は法然上人の教えに従うと。

信仰とは上も下も基本的にこうあらねばならいのでしょう。

聖書、お経の教えと言っても基本はただ信ずことが救われると言うことでしょうか。

昔の一般庶民のクリスチャン（カソリック）は聖書を持ちません。聖書文字はラテン語で分かりません。神父のお説教を聞いて分かっても分からなくてもアーメンと言えば良いのです。

一般の仏教徒もお坊さんのお経と説教を聞いて、は称名の「南無阿弥陀仏」、「南無妙法蓮華経」などを唱えます。たまに僧侶からお経を聞いても経典は漢字表示のサンスクリット語ですから何だか分かりません。

お経を解説するお説教すら一般庶民には理解が難しいです。

称名が大事です。

（８）法華経の概容

上記（７）にただ信ずるだけが宗教ではありません。インテリ向けの深い教理が備わっています（ない宗教もあります）

日蓮の教えは法華経を根本にしています。法華経は　大乗仏教の主要な経典です。お釈迦様の一生とその教えが書いてあります。

と言ってもお釈迦様が入滅後５００年位後の西暦 1~2 世紀成立の経典です。

お釈迦様を教主とする日蓮の法華宗の法華経（妙法蓮華経）とはどのようなものなのかです。ほんの概説です。

元々はインドの古語のサンスクリット語で書かれていたものを漢訳されました。日本でもこの漢訳された法華経を使用します。お経と言われているものです。漢文の知識が多少では何が何だか分かりません。キリスト教の初期の頃は聖書はみなラテン語で、一般の庶民は読めませんでした。

神父様が内容を解説してくれるのです。信者は後でアーメン（その通り）言えばいいのです。日本のお寺さんの僧侶は漢訳のお経（法華経）を読みあげます。サンスクリット語（古代インド語）を漢語に音訳したもので一般の信徒は何を言っているのかさっぱり分かりません。一般信徒はお経の後で「なむみょうほうれんげきょう」と唱えればいいのです。

しかし漢訳のお経は最近現代語訳されつつあり、法華経の現代語訳版や

解説書も出版されており便利です。著者もこれが頼りです。

構成は序品（じょほん）第一から普賢菩薩観発品第二十八までの 28 章の構成です。

現代語訳本で２５０ページ位でしょう。

お釈迦様自体のこととその教えが内容となります。

前半の１４品（章）まではお釈迦様のお生まれ、育ち、出家、悟り、涅槃についてと教えの内容です。教えは譬喩（ひゆ＝たとえ）をもって諭されます。

お釈迦様は生身の身体を持った人間が悟り、涅槃に入ります。

後半の１４品（章）はお釈迦様が超人化、神格化されていきます。永遠の仏陀を法身（ほっしん）といいます（生身のお釈迦様を生身（しょうじん））。

お釈迦様ははるか過去に成仏され永遠の命を持たれている。未来も無限の命である。涅槃の観念がありません。

前半と後半はお釈迦様が人間か絶対神かで存在位置が変わります。

日蓮は前半を迹門（しゃくもん）とし後半を本門（ほんもん）とし、後半の本門の章を第一に見ます。

大乗仏教には釈迦如来の上位に大日如来や阿弥陀如来をもってくる宗派があります。真言宗は大日如来が上位です。浄土宗（浄土真宗）は阿弥陀如来を持ってきます。日蓮はこれを認めません。禅宗の本尊は同じく釈迦牟尼仏ですが禅道（坐禅を組めば成仏できる）を認めません。

日本の仏教には宗派が上記のようにいくつもあります。それぞれ自分の宗派の正統性や優位性を言いますが、他宗を邪教と称してその存立を認めないというのは日蓮だけです。

（９）日蓮宗の信徒

それでは日蓮宗の信徒の層はどのような人が多かったのでしょう。

日蓮は自分では漁師の子であることを強調し、当時動物を殺生すること生業にするものは成仏できないとの言い伝えを打破しました。

侍も人殺しが生業です。後ろめたさがありました。これを日蓮は殺生地獄から救いをしました。

又成仏がなりがたいと言われた女子も成仏を約束しました。それまで女子は男に生まれ変わってから成仏できると言われていました。

一般の侍や卑賤の職業の人々の多くが信徒になります。

更に日蓮寂後の京都では商人の多くが信徒になりました。日蓮の教えは厳しいですが、明快で釈迦だけを本尊にし、現世娑婆世界の幸福の実現を言います。

毎日売った買ったの利益追求の厳しい現実社会を生きている商人にとって現実社会の優先の日蓮宗は自分たちの生活信条と一致したのでしょう。

武士も漁師も殺生地獄に落ちると言われても生きるために毎日の生業を止めるわけにいきません。

職業上の殺生を許してくれる日蓮宗は救いです。

（10）日蓮の佐渡流罪

さて鎌倉に戻った日蓮は他宗に論戦を挑み、幕府には法華宗を取り立てないと、内乱と侵略があると訴えます。

ここで幕府は日蓮を斬首の刑にしようとしましたが、刑執行のその瞬間に稲光が起り、処刑出来ません。そこで佐渡へ流罪となったとの事が日蓮宗での言い伝えです。

別の説によりますと、

日蓮の他宗への宗論（理論攻撃）によるトラブルが幕府には手に余ったのです。

もう時の人で幕府内でも信徒もおり、僧侶を処刑するのは躊躇したのです。

日蓮を佐渡に流罪としました。日蓮が５０歳の時です。

ところが滝の口（江の島の近く）で斬首されそうになりました。これは幕府が初めは流罪と称しておいて斬首にしようとしたのか、又は他宗の信徒がかってに斬首しようとしたのかであるとの説もあります。

日蓮宗の信徒は幕府による仕業で法難と言っています。

とにもかくにも天候の異変で稲妻（雷か）に襲われ斬首できず、佐渡送りが実行されたのです。

佐渡には３年ほどで赦免になりました。赦免の理由は分かりません。幕府内の信徒が赦免の要請をしたのでしょう。

佐渡でも布教を行い、浄土宗の信徒とトラブルがあります。門弟の日朗が佐渡に訪れることを許されています。

もちろん快適な生活ではなかったでしょうが、有力な支持者や信徒もおり、絶対的に拘束されていたわけではありませんでした。

鎌倉に戻り執権北条時宗の内衆で政権に近い平頼綱と対面したとなっています。官房長官のような人です。

頼綱より千町歩を寄贈するので他宗派非難を止めるように言われたが、日蓮から幕府が法華経を信じ、他宗派を禁圧しなければお応じないと答えたと、日蓮宗には伝わっています（日蓮聖人註画讃)。

日蓮の布教は容認されています。

(11) 身延山での活動

一般の信徒と共に侍の中でも信徒も増え、もう相当の名士になっていたのでしょう。この後甲斐国の身延山中の庵に住みます。１２７４年５３歳の時です。

１２７４年に蒙古が襲来し、２年前には一族北条時輔（執権時宗の兄）の乱があり、日蓮の立正安国論での予言があたったと言われます。

しかし次のように言う人もいます。

「蒙古が宋を倒し、朝鮮半島を支配したことは幕府はとっくに知っていた。禅僧が宋との外交官の役割をしていましたので、大陸の様相はわかっており、蒙古襲来は予期していた。」

「北条時輔は彼の内乱と言うより弟の執権時宗による粛清である。北条政権はそれまで多くの粛清劇を演じてきた。粛清は珍しい事件ではない。」

日蓮は身延山で、弟子養成、著述と布教活動をし９年間過ごしました。

体調が思わしくなくなり療養のため常陸の温泉へ行く途中の武蔵国池上の地で寂しました。１２８２年（弘安５)、６１歳でした。

この地には今池上本門寺（東京都大田区池上）があり、有名ですね。

日蓮は「立正安国論」以外にもの著述があります。開目抄、観心本尊抄、撰時抄、報恩抄等があります。

日蓮寂後、高弟で六老僧言われる日昭、日朗、日興、日向、日頂、日持　孫弟子達によって日蓮宗の布教に成功します。

日蓮生存中の布教範囲は、相模、武蔵、上総、下総、駿河、甲斐、伊豆、佐渡でした。

日蓮の遺言もあり京都に日朗門下の日像（日蓮の孫弟子）が京都進出に成功し、その後何人もの門弟が京都布教に成功します。

どの仏教宗派も京都布教に成功しませんと自宗派の拡大は望めません。

日蓮寂後日蓮宗派はその後後醍醐天皇、足利尊氏、近衛家にひいきにされ、京都での地盤を確たるものにし、地方布教にも成功し、室町時代には全国区の宗派になります。

（１２）北条政権の日蓮への対応

日蓮は法華経（法華宗）を広めるにあたり既存の宗派とトラブルを起こします。特に浄土宗との間では激しかったのです。

これは日蓮から宗論を挑んだもので、浄土宗の否定を主張しました。又他宗派は邪教としてすべて禁圧を幕府に訴えました。

騒動になるのは当然でしょう。

新宗の打ち立てで後塵を拝する日蓮にとって覚悟の上の挑戦でしょう。

日蓮は他宗かからの攻撃や幕府の流罪処分を法難と言いますが、時の北条政権に対し、他の宗派を禁圧して法華経宗だけを採用せよと要求します。

これに対し、幕府は日蓮を徹底的に弾圧したとは思えません。

臨済宗を一番としながらもどの宗派ともつきあう方針の北条氏は困ったでしょう。

幕府は日蓮を二度流罪にしますが、日蓮の法華宗を禁圧処分にしてはいません。

日蓮と他宗派との騒動をさけ、日蓮が浄土宗の信徒からの武力攻撃を避けるために流罪としたのではないかとも思えます。

二度とも２～３年で赦免となります。赦免の理由は分かりません。幕府の幹部の誰からか赦免願いか出たのでしょう。

一度目の後は直ぐに鎌倉での布教を許されており、二度目の後は北条氏の執事平頼綱と面談しています。日蓮から又法華宗の幕府の採用を要求しています。頼綱が何と言ったか分かりません。他宗に喧嘩を売るなと言ったのではないかと著者は想像します

その後も幕府から法華宗の禁圧があったとは言えません。

むしろ幕府は他宗への戦闘的な布教や幕府への強引な申し入れに困惑しながらも、比叡山延暦寺の最澄の天台宗を継ぐと称し、釈迦の教えを根本にする日蓮の教えの正当性と見識の高さを認めていたのではないかと思われます。

日蓮も法華宗を幕府で採用してくれないのは不満だったでしょうが、幕府への挑戦的行動はしていません。

日蓮は幕府から法難を受けたと本当に思ったでしょうか。滝口の斬首（未遂）は　幕府の処置ではなく浄土宗の信徒の行動と考えられます。

もし幕府の策謀なら鎌倉からもっと離れた地でうやむやに殺すはずです。

日蓮が佐渡から赦免され身延山で布教を行っていた時分に、駿河国富士の熱原で信徒と地元の天台宗の寺と布教上のトラブルで騒動なります。鎌倉で

裁定が行われ、日蓮側は敗れ、信徒３人が処罰されます。

日蓮にとっては法難ですが、日蓮以下幹部の僧はおかまいなしです。幕府は日蓮信徒の天台宗信徒への強引な折伏（執拗な勧誘）を原因と見たのでしょう。折伏は日蓮の方針です。

日蓮宗の派によってはその後も布教ため折伏が行われ、トラブルを起こすことがありました。

(13)日蓮寂後の日蓮宗

鎌倉仏教は衆生（一般人）に対しては難しい理論言いません。曹洞宗（禅宗）のただ坐禅、浄土宗（浄土真宗）はただ「南無阿弥陀仏」の念仏です。

日蓮宗（法華宗）は「南無妙法蓮華経」を唱えれば良いのです。

みな後世、鎌倉仏教の教団は発展しました。誰でも簡単に成仏でき、極楽浄土に行けたらいいですよね。

日蓮は鎌倉幕府には取り入れらませんでしたが、日蓮寂後後を継いだ弟子たちが京都で天皇、室町将軍、公卿の支援を得ることに成功します。後援者は後醍醐天皇、足利尊氏、近衛家等です。

そして室町時代に飛躍的に発展します。

日蓮宗は日蓮寂の後多くの宗派に分裂します。

ただ日蓮宗は室町時代以降日蓮の激しい教えから、他宗へ宗論を吹っかけたり、又不受不施と言って他宗からの布施（ほどこし）を受けない、他宗の者には供養はしないとする一派が出てきて他宗や時の政権と騒動を起こします。

室町時代に勢力争いから京都では一向宗（浄土真宗）と武力衝突もします。一向宗の一揆も激しいですが、法華宗（日蓮宗）の一揆もすさまじいものでした。

両者の間も落ち着き、仏教各宗安定の江戸時代にはいります。

おわりに

司馬史観と言われる司馬遼太郎は「日蓮は政治好きで、鎌倉幕府が臨済宗の僧侶を政治顧問にしていたのを自分の方が適任だとして変えろと要求したが、かなわなかった。そこで幕府ともめたと。」言っています。

「この日蓮の政治好きは後継の日蓮宗派の創価学会につながり、公明党の政治活動にあり」としています。

公明党は最初は野党で、日蓮と鎌倉幕府と同じ位置でしたが、今日では与党で、政権に食い込みました。日蓮の念願がかなったと言えるのでしょうか。

日蓮の政治（天下）への発言として、「国は法（法華経）によって栄え、仏法はひとによって貴ばれる、帝王は国家体制にもとづいて天下を統治し、人民は田畑を耕作して世の中をたもつ」
明治に入って前半の部分は石原莞爾（関東軍参謀）等の国家主義に利用され、後半の農業の大事の部分は宮沢賢治の思想に影響を及ぼしました。

他宗派にはない日蓮の業績を見てみました。

それから各宗派の教えをごく簡単に書いてしまいましたが、それぞれ奥深い教えがもちろんあります。
日蓮の教えは法華経を根本経典にします。教理は簡単ではありません。
日蓮五大部と言われる日蓮が著わされた立正安国論、開目抄、歓心本尊抄、撰時抄、報恩抄を読むことになります。
さらにこれを理解するには法華経はもちろんそれ以外の経典の華厳経、涅槃経等を読まねば理解できません。
これらと共に解説書を読んでも一部理解できるのですが多くの部分は著者には分かりません。
それは日蓮宗に帰依していないからです。
信仰は理屈から入る人も、信ずることから入る人もいますが、いずれにしても最後は信ずることがなければ教理は理解できないでしょう。

日蓮聖人に敬意を表しつつ「南無妙法蓮華経」。

以上

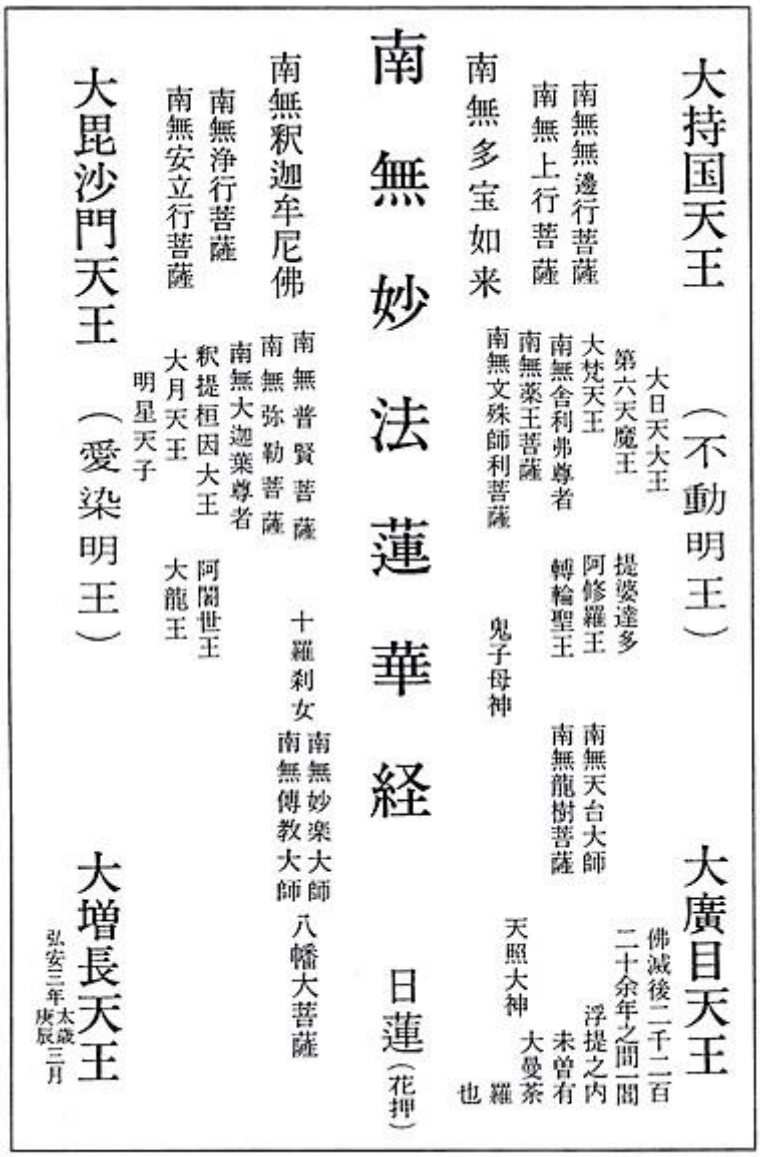
２０２１年3月１４日

梅　一声

日蓮関係文献

１、日蓮の立正安国論　正木晃　２０１７　春秋社
２、日蓮聖人の宗教　田中香浦　１９７９　真世界社

３、日蓮と法華経信仰　田村芳朗外　１９８５　読売新聞社
４、大乗経典の誕生　平岡聡　２０１５　筑摩書房
５、仏教学序説　山口　益　１９６１　文攻社
６、法華経入門　菅野博史　２００１　岩波書店
７、日本仏教思想のあゆみ　竹村牧男　２０１５　講談社
８、日本仏教史入門―基礎史料で読む　平成２１　角川学芸出版
９、「法華経」日本語訳　ひろさちや　２０１５　佼成出版社
10、黒田俊雄著作集第一巻　権門体制論　黒田俊雄　１９９４　法蔵館
11、黒田俊雄著作集第二巻　権門体制論　黒田俊雄　１９９４　法蔵館
12、日本の歴史７　中世３　新仏教教団の発展　笠原一男　１９６３　岩波書店
13、日本仏教史Ⅰ　笠原一男　１９７７　山川出版社
14、町衆　林屋辰三郎　１９６４　中央公論社
15、岩波仏教辞典　中村元　１９８９　岩波書店
16、日本仏教史研究　第三巻　続編上　辻善之助　１９８４　岩波書店
17、日本仏教史研究　第二巻　辻善之助　１９８３　岩波書店
18、日蓮主義とはなんだったのか　近代日本の思想水脈　大谷栄一　２０１９　講談社
19、日蓮の思想とその展開　都守基一外　２０１４　春秋社
20、国史辞典　吉川弘文館
21、日蓮「立正安国論」「開目抄」　山下直久　平成２２年　角川学芸出版
22、日蓮聖人遺文大講座　２巻　開目抄　小林一郎　日新出版
23、観心本尊抄　創価学会教学部遍　２０１８　聖教新聞者
24、日蓮の本　ブックス・エソテリカ５　１９９３　学習研究社
25、涅槃経を読む　田上太秀　２００４　講談社
25、華厳経をよむ　木村清孝　１９９７　日本放送出版協会
26、日蓮聖人註画讃　岩崎春樹・山田康弘遍　角川書店
28、仏教辞典　中村元等　１９８９　岩波書店
29、鎌倉新仏教成立論　１９８２　大野達之助　吉川弘文館」


大持国天王
（不動明王）
大広目天王
南無釈迦牟尼佛
南無妙法蓮華経
日蓮（花押）
南無多宝如来
南無無邊行菩薩
南無上行菩薩
南無浄行菩薩
南無安立行菩薩
大毘沙門天王
（愛染明王）
大増長天王
南無普賢菩薩
南無弥勒菩薩
南無大迦葉尊者
釈提桓因大王
大月天王
明星天子
大日天大王
第六天魔王
大梵天王
南無舎利弗尊者
南無薬王菩薩
南無文殊師利菩薩
提婆達多
阿修羅王
轉輪聖王
鬼子母神
十羅刹女
南無天台大師
南無龍樹菩薩
天照大神
大曼荼羅也
南無妙楽大師
南無傳教大師
八幡大菩薩
阿闍世王
大龍王
佛滅後二千二百二十余年之間一閻浮提之内未曽有
弘安三年太歳庚辰三月

御本尊坐配